

「戦略プロポーザル」を 作っています。

研 究開発戦略センターでは、社会ビジョンの実現に向けて重点的に推進すべき研究開発の領域や課題、システムについての「戦略プロポーザル」を作成し、関連する府省庁へ提言を行っています。これらは科学技術基本計画など、国の科学技術関係施策の立案に役立てられています。

センターでは毎年、科学技術分野全体の俯瞰(ふかん)や社会ニーズの検討などをふまえて、提言すべきテーマをいくつか設定します。そして、約1年間の調査や討議を経て、最終的にプロポーザルをまとめます。

2011年度、私はチームリーダーとして、「感染症の制御」をテーマにプロポーザルの作成を担当しています。たとえば、日本の子どもたちが受けられる定期接種ワクチンの種類はアメリカの半分しかなく、WHO推奨のワクチンが日本では接種されていないなど、日本は「ワクチン後進国」です。ほかにワクチンなど研究開発、審査・承認体制、国内のワクチン製造体制、人材育成や情報の収集・発信などの問題点もあり、これらを洗い出したうえで、「評価科学も含めた研究開発の推進」と「社会普及に向けた基盤整備」の必要性についてまとめる予定です。

プロポーザルの作成に向けて、まずは情報を網羅的に収集することか



研究開発戦略センター (CRDS)

フェロー

辻 真博 (30) つじ・まさひろ

●業務の内容

ライフサイエンス・臨床医学ユニット所属。イノベーション創出のための研究開発戦略立案に向けた調査・提言活動を行う。2011年度は「感染症の制御」に加え「医療技術評価」に関する検討なども担当。

●Background

専門は微生物学、および酵素学。東京大学農学部応用生命科学課程生命工学専修卒業後、JSTに入社。発展研究(SORST)や人道的対地雷探知除去技術研究開発推進事業などを担当の後、CRDSへ。現在8年目。

ら始めました。今年4月から文献調査に取りかかり、国内外機関の研究者へのヒアリング、関連する学会や国際会議への出席、諸外国の感染症政策に関する情報収集などの業務をチームで行いました。

これらと並行して行うのが、週1回のチーム定例会です。集まった情報をチームメンバーで共有し、毎回議論を交わします。メンバーは多様なバックグラウンドを持っており、各人の強みを生かしながら、提言案をブラッシュアップしていきます。

最初は漠然としていた提言案も、継続的な情報収集とチームディスカッションを重ねることで、夏ごろには明確になってきました。今回のプロポーザルには、目的志向型のワクチン、アジュバント(抗原性補強剤)研究開発体制の構築や、感染症疫学の強化、感染症に関する国民への広報活動の充実なども盛り込むことにしました。

10月には、外部有識者を招いてのワークショップも開催しました。研究者や医師、感染症情報の専門家などを交えた活発な意見交換が行われ、提言の具体性をさらに高めています。

現在、今年度末のプロポーザル発行に向け、説得力のある内容になるように検討中です。完成後は関係府省庁や団体などに提供します。



(左) 毎回、熱いディスカッションとなるチーム定例会。(中) 研究者や医師、感染症情報の専門家などが集まったワークショップ。活発な意見交換が行われた。(右) 「戦略プロポーザル」は、HP (<http://crds.jst.go.jp/output/sp.html>) でも公開している。

TEXT:Office彩蔵